

東京大学 文書館ニュース

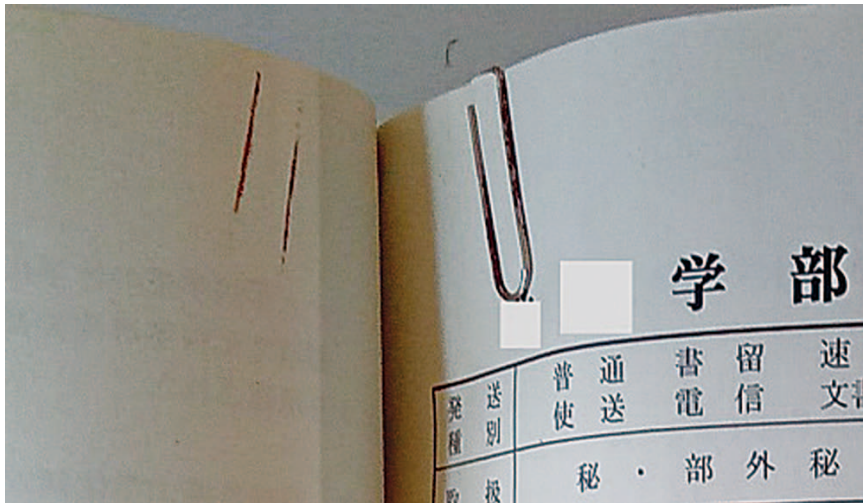
The University of Tokyo Archives Newsletter

vol. 68, Mar. 2022

資料の劣化を防ごう！

～未来へ伝えるためのメンテナンス～

平成時代に作成された比較的あたらしい資料でも、粘着テープの劣化、金属クリップやステープルのサビによってダメージを与えられているものがあります。文書館では、劣化の原因を可能な限り取り除き、資料を「元気な状態」で未来に伝えていくためのメンテナンスを行っています。



1995（平成3）年作成の文書。資料をまとめていたクリップが錆びて紙をいためています。これらを腐食しにくい真鍮製のクリップに付け替えます。



一冊の資料から取り外したクリップ。資料の保存環境によって、これだけのサビが発生します。

日常的なメンテナンスの一例をご紹介しましたが、今号の文書館ニュースは、いたみの激しい資料に施した専門的な修復（4ページ）、そしてデジタル化による資料の代替化（8ページ）をご紹介しています。

Contents

- 『東京大学百五十年史』編纂作業における文書館資料の活用
上西 晴也
- 『農学部前身組織関係資料群（S0026）』への保存修復処置について
花谷 敦子
- 業務日誌（抄）
（2021年8月～2022年1月）
- 資料の公開について
- レファレンスのご紹介
- 文書館トピックス
活用に向けた古写真資料の整理と公開
井上いぶき



2022年1月6日、都心で10センチの積雪がありました。写真は本郷キャンパスの雪景色です。

（撮影：星野 厚子）



東京大学文書館
The University of Tokyo Archives

『東京大学百五十年史』編纂作業における文書館資料の活用

東京大学百五十年史編纂室 特任研究員 上西 晴也

1. はじめに

今から約145年前の1877年4月12日、文部省から東京開成学校、東京医学校の二つの学校に対して、両校を「合併」し、「東京大学」と改称することが指令された¹。今日では、4月12日は東京大学の創立日とされており、2027年は「東京大学創立百五十周年」ということになる。この2027年を目標として、本学ではいま、『東京大学百五十年史』の編纂事業が行われている。

『東京大学百五十年史』編纂の検討は、2015年頃、佐藤慎一文書館長（当時）を中心とするワーキンググループによって始まった。2017年12月、総長裁量経費により『百五十年史』編纂の基礎的な作業が開始され、2019年度には全学組織として百五十年史編纂室（室長：佐藤健二教授）が発足して、現在に至っている。

百五十年史編纂室では現在、各部署の教員18名で構成された編纂室員の監督のもと、特任研究員4名、学術専門職員1名、RAおよび謝金雇用の学生約30名からなる「作業グループ」が、『百五十年史』編纂に必要な諸作業に従事している。筆者は、2017年12月の作業立ち上げ以来、学生作業者として作業グループの活動に携わり、現在は人文社会系研究科の特任研究員として、作業グループ統括担当編纂室員の祐成保志准教授のもとで、作業全般の管理を担当している。

本学の大学史としては、1980年代に刊行された、浩瀚な『東京大学百年史』が存在する。しかし、『百年史』の刊行後、本学は、大学院重点化と国立大学法人化という大きな変革を経た。また、この間の近現代史・教育史研究の進展も目覚ましい。最新の研究水準を反映し、草創期から現在までの東京大学の歴史を見通した『東京大学百五十年史』を編纂することは、大学の自己点検として意義のある事業だと考えている。

そして、『百年史』編纂時と現在の大きな相違として、現在の東京大学には、法人文書および資料等の管理、保存、利用等を担う専門機関としての東京大学文書館が存在する。百五十年史編纂室が担う『百五十年史』編纂事業は、文書館との密接な連携・協力のもとで進めていくことになる。本稿では、編纂作業の現場において、文書館の資料を実際にどのように活用しているかを紹介する。

2. 文書館デジタル・アーカイブの活用

2020年度から、『百五十年史』の全体構成等を立案するための基礎資料として、東京大学の歴史年表を作成する作業を、作業グループにおいて行っている。作業にあたっては、記述の正確性を確保するため、既存の年表類を転載するのではなく、可能な限り原史料を記述の根拠とし、各項目について出典資料を明記する、という方針を立てた。そのため、作業リーダーの福田真人特任研究員（当時）のもと、史料読解について専門性を有する大

学院生5名を配置して作業を開始した。

ただ、作業を立ち上げた時期が、新型コロナウイルス感染症の流行と重なった結果、当初、各作業者は在宅での作業を余儀なくされた。在宅作業のため、利用可能な資料に限られていた中で、大きな助けとなったのが、東京大学文書館デジタル・アーカイブで画像公開されている「文部省往復」等の資料群である。

歴史資料がデジタル化されることの利点は、在宅で閲覧できることに留まらない。戦前期の原史料の多くは、解読の難しくし字で書かれ、分厚い簿冊として綴じられているため、一朝一夕には読解できない。画像で一点一点、自由に取り出し吟味しながら読めることで、深い史料読解が可能になり、年表項目の精度の向上につながった。

もっとも、デジタル化は万能ではない。貼紙で多重に修正された文書など、どれだけ高画質でも、画像では解読に限界がある場合も多い。デジタル・アーカイブを持つ機関の中には、画像公開した資料の現物の閲覧を制限するところもあるが、東京大学文書館では、現物の閲覧にも対応されている。そのため、利用者としては、デジタル・アーカイブ上で内容を確認した上で、疑問のある箇所のみ文書館で現物を確認する、という運用ができ、効率的かつ高い精度で資料を調査することが可能になっている。

年表作成作業は、ある程度項目が出来た年代から逐次、既存の年譜類との比較検討や、キャンパスに出勤しての追加調査により、改良・充実を図るフェーズに移行している。2021年度後半には、文書館においてデジタル化された学内刊行物のデータ提供を受け、こうした確認・比較検討・追加調査の作業が大幅に効率化できた。学内刊行物のデータは、聴き取り調査の準備等にも活用している。なお、文書館をはじめ他部署から百五十年史編纂室へ、デジタルデータの提供を受ける場合には、データの性格に応じて編纂室内部でも共有範囲を限定し、情報の管理に留意しながら活用している。

3. 歴史資料等の活用

2018年度以来、『東京大学百年史』編纂経験者の照沼康孝特任研究員を文書館柏分館に派遣し、本学関係者から文書館に寄贈・寄託された資料の調査を行ってきた。現在までに調査したのは、以下の資料である。

- ①百年史編集室・東京大学史史料室が収集した諸資料
- ②稲垣栄三関係資料
- ③寺崎昌男関係資料
- ④清水洋美関係資料
- ⑤吉田寿雄・安藤和夫関係資料
- ⑥彌永貞三関係資料
- ⑦鶴田酒造雄関係資料

このうち⑦には、1960年代前半に東京大学事務局長を務めた鶴田酒造雄氏の日記が含まれる。照沼特任研究員は2019年度以降、この日記を解説・翻刻する作業を進めている。翻刻は日記中のプライベートな記述を省略し、本学に関わる事項のみ摘記する形で行い、現在、1956年から1964年前半まで、約13万字分の翻刻が完了している。

2021年12月7日には作業グループの主催で、「鶴田酒造雄日記」をはじめ、照沼特任研究員が調査してきた文書館資料の情報を共有し、今後の活用方法を検討する研究会を開催した。報告者は照沼特任研究員、コメンテーターを学生作業員の土屋優と石坂桜が務めている。編集室員および作業グループのメンバーの間で活発な意見交換があり、大学事務の幹部の関係資料を調査することの重要性が確認された。また、佐藤慎一五十年史編集室顧問、文書館の森本祥子准教授からも貴重な情報提供があった。

4. 特定歴史公文書等の活用

編集室員および作業グループのメンバーが随時、文書館本郷本館・柏分館を訪問して、各部局から文書館に移管された特定歴史公文書等を閲覧し、編集作業に活用している。これまでに閲覧した主な資料として、以下のものがある。

①評議会記録

東京大学評議会は、2004年度の国立大学法人化まで本学の最高意思決定機関の役割を果たした。その記録は、東京大学の歴史を語る最重要の史料の一つであり、『百年史』でも、多くの記述のベースになっている。

『百五十年史』編集においても、「評議会記録」の目録作成を、最優先で行うべき基礎作業の一つとして、2017年12月以来実施してきた。現在は上西が作業を担当し、文書館に保管されている、1988年度以前の「評議会記録」を閲覧して作成を進めている。作成した目録は、前述した年表作成作業等に活用している。

②教養学部教授会議事録

岡本拓司教授を中心に、総合文化研究科の編集室員および特任研究員が、教養学部に関係する資料の調査を、教養学部の事務の協力を得ながら進めている。その一環として、2021年8月に平井正人特任研究員が文書館所蔵の「教養学部教授会議事録」(S0027)を調査し、教養学部草創期の貴重な資料であることを確認した。

③学生部旧蔵資料

『百五十年史』においては、大学を経営する側の視点を中心とした従来型の大学史にとどまらず、多様な視点を盛り込んだ大学史を目指すことが、編集室内で合意されている。多様な視点を取り入れる試みの一つとして、今年度、学生作業員の野村由美を担当者として、東京大学の女性史についての調査を開始した。調査にあたって、文書館の秋山淳子助教から、学内の関係資料の所在についてレファレンスを受けた。文書館にある資料としては、学生部旧蔵資料の調査を進めている。

女性史に限らず、学生の側の動向や視点は、東京大学の多様性を考える上で非常に重要である。文書館には、教育・学生支援部から移管された多くの資料があり、今後いっそう活用したい。

5. 今後の展望と課題

この二年間、新型コロナウイルス感染症の流行による制約にもかかわらず、文書館からは、『百五十年史』編集のための文書館資料の閲覧が継続できるよう、感染対策上可能な範囲で最大限の配慮をいただいている。歴代総長のオーラルヒストリーの作成、卒業生氏名のデータベースの作成、デジタル化した『東京大学百年史』の東京大学学術資産等アーカイブズポータル上での公開など、これまで文書館と百五十年史編集室の協力によって実施できた事業も多い。

他方で、百五十年史編集室発足以来、現在まで専任教員がいない、という弱体な編集体制の中で、課題も少なくない。文書館に移管された資料の中でも、例規類や財務部の資料など、編集室内でも重要性が指摘されているにもかかわらず、未だ十分な活用が出来ていないものも多い。

文書館に資料が移管・寄贈されることは、その資料が安全に恒久的に保存され、しかるべき時期において、しかるべき手続きを踏めば、誰でも閲覧可能になる、ということの意味する。そうした資料に基づいた『東京大学百五十年史』をつくることは、『百五十年史』の内容の検証性・透明性を高め、ひいては社会の東京大学への理解・関心の向上に寄与するであろう。2027年までに残された時間は多くないが、そうした『百五十年史』を目指して、今後も文書館との連携・協力のもと、編集作業を進めていきたい。

¹ 「本校医学校合併ノ件」(東京大学文書館所蔵『文部省往復明治十年甲』、S0001/Mo019/0039)。

『農学部前身組織関係資料群 (S0026)』への保存修復処置について

有限会社紙資料修復工房 花谷 敦子

はじめに

標記の資料群は和紙に墨書き、厚い簿冊形状の明治期資料群であり、長期に亘る保存・利用により様々な劣化が生じている。特に夥しい虫損害と水損後の黴害が見られるものは丁同士が固着し一塊となり、閲覧が不可能な状態となっている。今回の依頼の目的は、この資料群に留まらず、東京大学文書館内の資料群全体の閲覧、つまり資料情報へのアクセスを保証するために、継続可能な修復方法を探ることにある。そこでまず試験的に資料群の中でも固着の激しい「S0026/SS1/0070」、「S0026/SS1/0071」の2冊、合計600丁余の処置を行い、その過程で得られた処置の選択と問題点を報告する。

具体的な処置の選択

通常このような酸性紙資料ではない簿冊資料の長期保存には、①丁の解体とドライクリーニング ②シミや虫損・黴害などの汚損や長期保存により酸性に傾いている和紙へのウェットクリーニング ③手修補・リーフキャストイング処置による虫損・欠損の補填 ④再製本と中性紙保存容器への収納、といった処置を行うが、今回は最小限の介入処置によりデジタル撮影が可能となるような丁の展開を第一の目的とするため、①丁の固着の解体 ②文字の島抜けや今後破損が広がる恐れのある箇所のみ仮留めとしての簡易補修 ③文書館内でのデジタル撮影に備え、綴じずに中性紙保存容器へ丁を積層して収納、以上3点を行った。

簡易補修に使用する生麩糊は高温で良く攪拌しながら炊いた接着力の高い糊を米のとぎ汁程度まで水で薄めたものを使用し、その糊で接着可能な極薄い典具帖紙を補填用紙とした。理由は、糊は濃度が高く粒子が荒ければ経年劣化により固着が進み剥がれにくくなり、和紙など

の長繊維の間に入り込んだそれらを除去することは容易ではないため、水様の糊はドライクリーニングを完全に行っていない資料の汚損定着も防ぐことができるからである。また、極薄い典具帖紙を使用することにより、今後、時代の要望が変わり、完全な修復を求められた場合にも、この典具帖紙を剥がさずに、そのまま本紙同厚の補填やリーフキャストイング処置を施すことが出来る。

今後の検討課題

処置中に感じた問題点としては以下の4点がある。(1)文字の位置が特定できない破断片や剥がれた付箋が多く散見され、これらを典具帖紙で裏打ち後、ノンバッファ紙の薄様に挟み丁間に保存したが、位置の特定と本紙への再貼付をどの段階で進め散逸を防ぐか。(2)ドライクリーニングを割愛したが、丁の解体に伴い虫糞が夥しく出現し、簡易補修中にサクシオンテーブル(吸引装置)でドライクリーニングを行わざるを得なかった。(3)穿孔ではなく横に長く伸びた形状の虫損や黴害などの微生物分解による大きな欠損の丁が続く場合、積層させた本紙を捲るための強度を簡易補修で得るには、部分的に補修の程度の緩急をつける必要がある。処置をする人の経験値に委ねられるこれらの判断を共有する方法はあるか。(4)もし資料が酸性紙で永年保存が求められるのなら、補修ではなく水性脱酸性化処置が第一の選択肢となる可能性がある。

最後に

多くの資料所蔵機関は、修復を外部委託しているが、デジタル撮影も含め、処置の方法や材料の検討と共有には、長期的な視点で協働の場を現場に保ち続けることが必要と感じた。



極薄い典具帖紙による簡易補修後



処置前の状態

業務日誌(抄)

(2021年8月～2022年1月)

※(本): 於本郷本館、(柏): 於柏分館

- | | | | |
|--------|--|--------|--|
| 2月8日 | ・石原尚文様より資料寄贈 (F0279) | 10月21日 | ・イカリ消毒社による燻蒸作業 (～11/9) |
| 3月5日 | ・農学生命科学図書館より資料寄贈 (F0280) | 10月22日 | ・柏キャンパス一般公開参加 (オンライン) (～10/23) |
| 3月15日 | ・東京武蔵野病院精神医学情報センターより川村麟也関係資料寄贈 (F0272) | 10月26日 | ・第80回館員打ち合わせ (柏) |
| 4月28日 | ・芝崎泰雄様より芝崎謙平関係資料 (F0276) 寄贈 | 11月2日 | ・逢坂、千代田、井上、アジア歴史資料センター開設20周年記念シンポジウム参加 (オンライン) |
| 6月22日 | ・志摩 (西沢) 晴樹様より志摩 (西沢) 晴樹関係資料寄贈 (F0281) | 11月4日 | ・森本、東京都公文書管理委員会出席 (都庁) |
| 8月3日 | ・教員ミーティング (オンライン) | 11月8日 | ・元、科研費関係出張 (～11/10) |
| 8月5日 | ・森本、科研費研究会会議出席 (オンライン) | 11月9日 | ・イカリ消毒社による燻蒸作業 (薬剤開放) |
| 8月6日 | ・森本、理学系研究科・上島先生と旧動物学教室資料移管について相談 (本) | | ・産業医巡視 (本) |
| 8月11日 | ・収蔵庫防虫のためのエアローチ散布 (本) | 11月12日 | ・千代田、第26回サイエンスカフェ参加 (オンライン) |
| 8月12日 | ・森本、旧動物学教室資料確認 (博物館) | 11月12日 | ・森本、百五十年史編纂室会議陪席 (オンライン) |
| | ・文書館夏期休業 (～8/13) | 11月15日 | ・森本、国立公文書館アーカイブズ研修Ⅲ出席 |
| 8月23日 | ・森本、国立公文書館アーカイブズ研修Ⅰ出席 | 11月15日 | ・元、科研費関係出張 (～11/16) |
| 8月26日 | ・森本、秋山、藤本邦彦文書調査 (駒場博物館) | 11月19日 | ・山内聖子様より山内晋卿写真類寄贈 (F0025) |
| | ・森本、世田谷区公文書管理委員会出席 (オンライン) | 11月19日 | ・収蔵庫防虫のためのエアローチ散布 (本) |
| 8月30日 | ・第78回館員打ち合わせ (オンライン) | 11月20日 | ・元、立教大学共生社会研究センター主催オンライン・ミートアップ報告 |
| 9月2日 | ・収蔵庫 S110 および SC105 の扉とその周辺の壁 (いずれも廊下側) に黒いカビが発生していることを確認し、アルコールを用いて除去 (本) | 11月22日 | ・森本、元、逢坂、文化庁と重要文化指定資料取扱について打ち合わせ (本) |
| 9月3日 | ・UTokyo Repository に文書館ニュースを掲載 | 11月30日 | ・森本、百五十年史作業グループと打ち合わせ (本) |
| 9月7日 | ・撮影スタジオ 671号室内にカビを確認し、エタノールを用いて除去 (柏) | | ・第81回館員打ち合わせ (柏) |
| 9月8日 | ・森本、建築学会にて報告 (オンライン) | | ・移管文書を公用車で移送 (本→柏) |
| | ・元、逢坂、京都大学総合博物館と打ち合わせ (オンライン) | 12月1日 | ・財務課文書搬出作業 (～12/3) (本) |
| 9月9日 | ・森本、秋山、百五十年史編纂室会議陪席 (オンライン) | 12月6日 | ・森本、科研費研究会出席 (オンライン) |
| 9月10日 | ・収蔵庫防虫のためのエアローチ散布 (本) | 12月7日 | ・森本、寄贈写真について打合せのため東京都写真美術館訪問 |
| 9月13日 | ・森本、東アジア藝文書院メンバー視察対応 (本) | | ・森本、百五十年史編纂室作業グループ研究会出席 (オンライン) |
| | ・星野、国立公文書館アーカイブズ研修Ⅲ参加 (～9/18) | 12月8日 | ・森本、世田谷区公文書管理委員会出席 (オンライン) |
| 9月16日 | ・国立大学協会より資料寄贈 | 12月9日 | ・逢坂、科研費出張 |
| | ・産業医巡視 (柏) | 12月10日 | ・元、逢坂、京都大学大学文書館視察対応 (柏) |
| | ・UTokyo Repository に文書館紀要掲載 | 12月10日 | ・森本、百五十年史編纂室会議陪席 (オンライン) |
| 9月28日 | ・第79回館員打ち合わせ (オンライン) | 12月13日 | ・森本、元、千代田、文書管理説明会出席 (オンライン) |
| 9月29日 | ・館員、研究倫理セミナー受講 (オンライン) | 12月15日 | ・森本、文化資源学出講 (オンライン) |
| 10月1日 | ・文書館ニュース第67号より仕様変更 (モノクロ→カラー) | 12月17日 | ・事務室・閲覧室・収蔵庫 (SC105) のスチールドア塗装 (本) |
| 10月4日 | ・大学の活動制限指針のレベルがBからAに緩和 | 12月18日 | |
| 10月6日 | ・森本、旧第二工学部の資料について生産技術研究所と打ち合わせ (オンライン) | 12月19日 | ・逢坂、デジタルアーカイブ学会 DA フォーラム発表 (オンライン) |
| 10月7日 | ・22時41分に千葉県北西部を震源とする最大震度5強の地震が発生 (文京区・柏市ともに震度4、いずれも館内に被害なし) | 12月21日 | ・第82回館員打ち合わせ (本) |
| 10月8日 | ・防災訓練 (柏) | 12月21日 | ・森本、元、緑会憲法研究会資料確認 (本) |
| | ・元、科研費関係インタビュー調査 (オンライン) | 12月22日 | ・森本、一橋大学学園史資料室の来館対応 (資料確認のため) (柏) |
| 10月11日 | ・星野、国立公文書館アーカイブズ研修Ⅲ参加 (～10/13) | 12月27日 | ・森本、井上、資料デジタル化について堀内カラーと打合せ (柏) |
| 10月13日 | ・整理済み資料を公用車で移送 (本→柏) | 12月28日 | ・収蔵庫防虫のためのエアローチ散布 (本) |
| 10月14日 | ・森本、国立公文書館アーカイブズ研修Ⅲ出席 | 1月7日 | ・収蔵庫隙間ブラシ交換 (本) |
| | ・元、逢坂、OmekaS 改修について打合せ (オンライン) | 1月12日 | ・伏見論様より資料寄贈 |
| | ・収蔵庫防虫のためのエアローチ散布 (本) | 1月14日 | ・森本、世田谷区公文書管理委員会出席 (オンライン) |
| 10月15日 | ・森本、企業史料協議会ビジネスアーキビスト研修講座出席 (オンライン) | 1月17日 | ・森本、IPMU 資料確認 (柏) |
| | ・森本、世田谷区と打ち合わせ (オンライン) | 1月18日 | ・元、科研費関係出張 (～1/19) |
| | ・柴田親俊様より資料寄贈 (F0025) | 1月19日 | ・寺田雄一様より資料寄贈 (F0025) |
| 10月16日 | ・第20回東京大学ホームカミングデイ (オンデマンド) 参加 (10/16～24までの視聴回数は188回) | 1月21日 | ・大学の活動制限指針のレベルをAからBに引き上げ |
| 10月18日 | ・収蔵庫の湿度が50%を切ったため空調電源を切る (本) | 1月24日 | ・第83回館員打ち合わせ (柏) |
| 10月19日 | ・元、科研費関係出張 (～10/21) | | ・IPMUより資料寄贈 (柏) |
| | ・森本、千代田、本部総務課と法人文書管理の打ち合わせ | 1月25日 | ・森本、部局女性人事加速5カ年計画意見交換会出席 (オンライン) |
| 10月20日 | ・環境整備 T による書架清掃 (柏) | 1月26日 | ・収蔵庫防虫のためのエアローチ散布 (本) |
| | ・収蔵庫の室温 25度、湿度が50%を切ったため空調電源を切る (柏) | 1月27日 | ・第一高等学校・東京大学弁論部より緑会憲法研究会資料寄贈 (F0283) |
| | | 1月28日 | ・森本、三重県公文書等管理審査会出席 (オンライン) |
| | | 1月31日 | ・森本、戸田市歴史公文書管理検討委員会出席 (オンライン) |

※一部、今回対象とした期間以外の情報も掲載しています。

資料の公開について (2021年8月1日～2022年1月31日)

上記期間内に整理を終え、新たに公開した特定歴史公文書等ならびに歴史資料等は、以下のとおりです。

(新規登録資料群＝★)

※概要記述とアイテムリスト(目録)は、当館のデジタル・アーカイブからご確認いただけます(<https://uta.u-tokyo.ac.jp/uta/s/da/page/home>)。

特定歴史公文書等

| 事務 | |
|-------|-------------------|
| S0067 | 庶務課関係諸資料 |
| S0203 | キャンパス計画室会議 |
| S0207 | 国際学生宿舎管理 |
| S0266 | 財務・会計関係規則 |
| S0315 | キャリアサポート関係イベント開催 |
| S0334 | 国際センター柏オフィス運営 |
| S0346 | 部局別職員組織状況表 |
| S0356 | 現員簿 |
| S0359 | 五月祭 |
| S0370 | 入試実施委員会 |
| S0375 | 入試教科委員会 |
| S0377 | 入試追跡調査 |
| S0383 | 柏キャンパス一般公開 |
| S0384 | 国立大学協会入試委員会 |
| S0420 | 寄付講座・寄付研究部門の設置等報告 |
| S0469 | 学生表彰関係 |
| S0519 | 環境安全本部年報 |
| S0525 | 職務発明認定書 |
| S0535 | 放射性炭素年代測定装置委員会 |
| S0549 | 定員貸借関係綴(過員承認) |
| S0593 | 教職員安全衛生教育 |
| S0597 | 復興支援室業務関連資料 |
| S0598 | ★センター長会議 |
| S0616 | プレジデント・カウンシル |
| S0619 | 本郷地区衛生委員会 |
| S0627 | ★国立七大学学生関係協議会 |
| S0628 | ★概算要求 |
| S0629 | ★学内予算配分 |
| S0631 | ★柏地区規則等制定関係 |
| S0632 | ★地球温暖化対策計画書 |
| S0633 | ★国立大学の法人化に伴う制度検討 |
| S0634 | ★東京大学運動会・運動部活動支援 |
| S0639 | ★東大フォーラム |
| S0640 | ★事件対応一件文書 |
| S0641 | ★大学後援法人設置関係 |
| S0642 | ★総務関係事項引継 |
| S0644 | ★職制定数関係 |
| S0645 | ★国賓・公賓級外国要人來訪受入 |
| S0646 | ★海外事務所活動報告 |
| S0647 | ★中期計画予算・年度計画予算 |
| S0648 | ★事務機構整備 |
| S0657 | ★財務戦略室会議 |
| S0658 | ★臨時遺跡調査委員会 |

| 大学院・学部 | |
|--------|------------------------------|
| S0237 | 総合文化研究科・教養学部 国際交流・留学生委員会 |
| S0257 | 情報理工学系研究科 スタッフ会議 |
| S0259 | 薬学系研究科・薬学部 教授会・教授総会 |
| S0267 | 総合文化研究科・教養学部 実験時における倫理審査 |
| S0268 | 総合文化研究科教育会議 |
| S0270 | 教養学部前期課程クラス編成 |
| S0277 | 駒場地区衛生委員会 |
| S0281 | 医学系研究科・医学部 予算 |
| S0283 | 医学部運営委員会 |
| S0291 | 理学系研究科・理学部 教授会 |
| S0296 | ★理学系研究科 ヒトゲノム研究倫理審査委員会 |
| S0317 | 学際情報学府 教務委員会 |
| S0319 | 情報学環・学際情報学府 総務委員会 |
| S0332 | 農学生命科学研究科委員会、教育会議 |
| S0363 | 医学部教務委員会 |
| S0430 | 総合文化研究科・教養学部 東日本大震災対応駒場祭 |
| S0431 | 駒場祭 |
| S0442 | 薬学系研究科・薬学部 ヒトを対象とする研究倫理審査委員会 |
| S0444 | 薬学系研究科・薬学部 委員会関係 |
| S0473 | 三鷹国際学生宿舎運営委員会関係資料 |
| S0476 | 理学系研究科・理学部 男女共同参画委員会 |
| S0489 | 研究教育改善室会議 |
| S0490 | 新領域創成科学研究科 企画室会議 |
| S0503 | 総合文化研究科図書委員会・駒場図書館運営委員会 議事録 |
| S0531 | 農学生命科学研究科 国際委員会 |
| S0574 | 文学部 教務委員会 |
| S0612 | 医学系研究科・医学部 推薦入試 |
| S0621 | ★附属病院 高圧酸素治療装置爆発事故関係 |
| S0622 | ★附属病院 RI 問題 |
| S0623 | ★附属病院 精神神経科病棟(赤レンガ)関係 |
| S0624 | ★附属病院 東大紛争関係 |
| S0635 | ★法学部附属外国法文献センター関係資料 |
| S0637 | ★アメリカ太平洋地域研究センター運営委員会 |
| S0643 | ★工学系研究科 原子力施設共同利用研究 |

附置研究所

| | |
|-------|-------------------------------|
| S0206 | 東洋文化研究所 教授会 |
| S0209 | 生産技術研究所 教授総会 |
| S0217 | 海洋研究所教授会 |
| S0219 | 大気海洋研究所 研究船共同利用 |
| S0246 | 地震研究所 企画運営会議 |
| S0321 | 地震研究所教授会 |
| S0322 | 地震研究所共同利用実績報告 |
| S0324 | 地震予知研究協議会 |
| S0335 | 宇宙線研究所教授会 |
| S0336 | 宇宙線研究所部主任会 |
| S0337 | 宇宙線研究所 共同利用運営委員会・運営委員会 |
| S0391 | 名誉教授懇談会 |
| S0435 | 東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター 運営委員会 |
| S0438 | 東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター 委員会 |
| S0449 | 全国文献・情報センター長会議・セミナー |
| S0554 | 気候システム研究系共同研究 |
| S0558 | 大気海洋研究所 学際連携研究 |

全学センター

| | |
|-------|------------------|
| S0239 | 人工物工学研究センター運営委員会 |
|-------|------------------|

附属図書館

| | |
|-------|-----------|
| S0455 | 柏図書館運営委員会 |
|-------|-----------|

国際高等研究所

| | |
|-------|---------------------------------|
| S0638 | ★ サステナビリティ学連携研究機構戦略的研究拠点育成評価委員会 |
|-------|---------------------------------|

歴史資料等

教員資料

| | |
|-------|-----------|
| F0029 | 佐藤銀五郎関係資料 |
|-------|-----------|

その他

| | |
|-------|---------------|
| F0025 | 史料室アルバム |
| F0282 | ★ 英文院生協議会関係資料 |
| F0279 | ★ 石原資郎関係資料 |
| F0280 | ★ 釣友会関係資料 |

上記期間中も個人や団体から多数の資料を寄贈いただきました。ありがとうございます。今後も引き続き、東京大学に關係する資料・学内刊行物のご寄贈をお待ちしています。

レファレンスのご紹介

Q

「教育勅語」の所蔵はありますか。(学外からの問い合わせ)

A

「教育勅語(菊花紋章入り収納箱付)」(参照コード:S0046/1)を所蔵しています。

教育勅語は1890(明治23)年10月に文部大臣に下賜されました。

当館が所蔵するのは、本学へ下賜された謄本のうち、現存する2通です。謄本とはいえ、明治天皇親筆の署名、御璽もあります。また、当館は緊急時に教育勅語と御真影を搬出する際に用いられると考えられる背負子(「奉遷箱」(参照コード:S0047))も所蔵しています。

2022(令和4)年1月、当館のデジタル・アーカイブ上に収納箱を含めた教育勅語の画像を公開いたしましたので、どうぞご利用ください。



「教育勅語(菊花紋章入り収納箱付)」(参照コード:S0046/1)の一部

文 書 館 ト ピ ッ ク ス

活用に向けた古写真資料の整理と公開

東京大学文書館が所蔵する写真資料には、古いもので明治時代に撮影された写真も残っています。柏分館にも古い写真資料とその関連資料が未整理のまま眠っていましたが、2021年10月からこの写真資料の目録をデジタル・アーカイブ上で公開する為、整理を行いました。今回整理・公開対象となった柏所蔵の資料も明治～大正時代の古い写真資料で、中には当館がこれまで公開していた写真資料よりも古い年代のものもありました。また、こうした年代の古い写真資料は学内外からのニーズも高く、これらの資料を公開することはそうしたニーズにも応えることになる為、整理・公開を行うことが決まりました。今号のトピックスでは、写真資料の公開に当たりどのような整理や保護処置を行ったのかをご紹介します。

整理に当たっては、整理開始時点での資料の状態に応じて適切な保護処置を行うようにしました。整理開始の時点で、台紙付き写真資料は汚染ガス吸着シートに挟み込まれて保護されているのみで、シートがめくれやすく資料の保護という面で心もとなさがありました。そこで汚染ガス吸着シートによって保護されている資料を、更にL字型透明ファイルに差し入れて二重保護とすることにしました。資料の中には、台紙に貼付された紙が破れているものもあり、これ以上損壊させないように注意しながら整理作業を進めました。幸い汚損がひどい資料は無く、今回は資料クリーニングなどの清掃作業を行いませんでした。他にも、中性紙封筒に入れてそのままの状態になっていた台紙無しの写真資料もあり、そちらは中性の薄葉紙に資料を挟み込み、資料の大きさに合わせた中性紙封筒に再度入れて、保護処置としました。

以上の物理的な保護処置を行った上で、目録情報の登録作業を行い、2021年中にこれらの写真資料の目録を当館デジタル・アーカイブ上で公開しました。F0025/S05/0194～F0025/S05/0247の計54点を登録、当館デジタル・アーカイブ (<https://uta.u-tokyo.ac.jp/uta/s/da/page/home>) で確認出来ます。またこれらの写真資料の一部をデジタル化して公開することも決まり、準備を進めています。今後は目録整備を含めた資料整理だけでなく、写真資料の活用を進める為のデジタル化も進めていきます。



今回の整理・公開対象写真資料の1枚。
F0025/S05/0244 「写真〔池田謙斎、外山正一他集合写真〕」
(年代不明)

(井上いぶき)

東京大学文書館ニュース 第68号

ISSN 0915-3284

発行日：2022年3月31日（年2回発行）

編集・発行：東京大学文書館

〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1

電話：03 (5841) 2077 (直)

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/history/index.html>

印刷所：松枝印刷株式会社